

偉大な勝利をしっかりと確認しよう



83. 5. 13

No. 1337

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

青年選対がく叩えり

動労千葉・中江氏、三八九六票（第四位（五二議席））。七六名立候補の中で。反対同盟・北原氏、一一〇六票（第一七位（三〇議席））。三二名立候補の中で。なによりもこのものすごい勝利をしっかりと確認しよう。ついにやったのだ。八三年三里塚・国鉄決戦が反動・中曽根との階級間決戦としてたたかわれようとしているとき、中江・北原選挙闘争勝利は、三里塚・国鉄決戦の突破口を大きくきりひらいた。この勝利は動労千葉、一三〇〇の総決起でかちとったのだ。

とりわけ、青年選対は、動労「本部」革マル反動分子の選挙闘争破壊攻撃に対して、全支部の総決起をかちとりながら、たたかいぬいた。

「反中曽根」「三里塚―国鉄路線」の勝利

中江選挙は全くの「ゼロ」から出発した。しかし全組合員の総決起と全国の支援の力は、総力でたたかう中から、不可能を可能とする大勝利をきりひらいた。79・3の動労千葉分離独立、81・3ジェットストライキ以来の総力決起が勝利の原動力となった。これは労働連帯・三里塚をたたかう労働運動の路線の勝利だ。「反戦・反核・護憲」という全人民的課題をきっかけ、反動・中曽根と対決する階級決戦としてたたかいぬいたからだ。

革マルの敵対を粉碎し、日共をおい落とす

船橋を「反戦・反核」でうずめつくす決意でピラをまく。犬においかけられ、道に迷いつつ一軒一軒ビラ入れを貫徹する。更に七〇にのぼる推薦労組の組合員へのオルグへと毎日足を棒にしておかめぐる。はじめての市民の中へのオルグに緊張するが、「ドブ板問題」にあきたらない市民に、「反戦・反核」の中江への支持・共感は大きく広がる。

また青年選対は、選挙防衛行動に総決起した。「本部」革マル・権力・右翼らの選挙破壊を絶対に粉碎する。これこそ青年部の最も得意とするところだ。車へのパンクやいやがらせ電話、事務所への襲撃など許さないと決意で、夜を徹して防衛する。この中で、「本部」革マルの卑劣な姿が増々あらわとなり、動労千葉の正義性が一層鮮明となった。

中江―北原の圧勝を軸に、動労千葉は、全推薦候補の九割を当選させた。日共は、成田で一名が落選し、船橋では八名中五名が落選した。「本部」革マルのデッチあげ「千葉地本」唯一の組織内候補も銚子で現職を失った。

こうして、今までのワクを突き破り、船橋・成田という一地域のみならず、全県下をグイグイ牽引し、中曽根打倒、三里塚・国鉄決戦勝利の陣形をつくりだした。

情勢を大きくきりひらいた青年選対の行動力

一方、中江選挙とともに北原選挙勝利にむけて成田支部青年部は総決起した。独自に支部青年選対を結成し、支部選対とともに北原勝利の大きな一翼をになった。条件派の脱落・逃亡の中で、政府・公団・条件派・革マル一体となった「北原おとし」二期攻撃のつよまる中、階級の強化をもちとった反対同盟とともに、なにがなんでも北原当選をかちとるべく成田市内を駆けめぐり、前回の得票を大きく一五〇も上まわる、一一〇〇票をかちとる大勝利をもぎとった。

公団・条件派・革マルのうけた打撃ははかりしれない。この勝利は反対同盟農民一人ひとりに大きな力となり、成田支部ここにありという力を天にさししめした。

さらに前進しよう！ 5・22総決起へ

三里塚・国鉄決戦の成否のかかった中江―北原選挙は大勝利をかちとった。反動・中曽根打倒をきっかけ、八三年階級決戦の第一歩をきりひらいた。だが、敵はすでに四月十五日、「パイプライン八月供用開始」をうちだし、二期攻撃の号令をうちだした。たたかいはいよいよこれからだ。選挙闘争勝利の地平のうえに、5・22三里塚総決起かちとろう。三里塚・国鉄決戦勝利へ総決起しよう。

（投稿・青年選対員 S）